市川市議会は毎年２月、６月、９月、12月に定例会を開きます。
市議会だよりは５月、８月、11月、翌年２月に各定例会号を発行（新聞折り込み）し、審議内容をお知らせしています。

市川市

いちかわ 市議会だより

2021年（令和3年）第246号
1月1日（祝）
発行　市川市議会
編集　議会運営委員会
市川市八幡 1-1-1 ☎ 334－1111
http://www.city.ichikawa.lg.jp/cou01/1541000002.html

曙光に映える市川市役所第１庁舎

◇新年のごあいさつ◇

市議会議長　松永　修巳
市議会副議長　秋本のり子

明けましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、令和3年の新春を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より本市議会の運営並びに活動に対しましてご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、「コロナ禍」という言葉に代表されるように、新型コロナウイルスの感染拡大によって、私たちの生活が大きく変化した1年でした。1月に国内初の感染者が確認されたことを皮切りに感染は徐々に拡大し、4月には緊急事態宣言が発令され市政はもとより市民一人一人の生活が多大なる影響を受けました。

市川市議会でも、議場内のソーシャルディスタンスの確保や飛沫防止パーテーションの設置など感染拡大防止の対策を講じながら、議会活動を継続してまいりました。

さて、本市では、長らく工事を進めてまいりました市役所新第1庁舎が完成し、1月4日に全面開庁いたします。市議会の傍聴席は7階にございますので、議会の開会中はぜひ傍聴に来ていただき、新しい議場での市議会の様子を直接ご覧いただければと思います。市民の皆様の期待を背負った新庁舎が、施設の特性を最大限に生かし、多方面に活用されることを期待しています。

市政を取り巻く環境は、従来の福祉、教育、環境など多岐にわたる課題に加えて、新型コロナウイルスへの対応という新たな緊急課題が重なり、非常に慎重な判断が必要とされる局面を迎えています。しかし、「ピンチはチャンス」と言いますように、これを転換期と捉えれば、本年は市川市にとって変革の年、飛躍の年でもあると言えます。

本年の干支は「丑」です。「丑」という字は、手の指を曲げて物を握る様子を表しており、「つかむ」という意味があるそうです。また、「牛」は近代化以前の日本の農業に欠かせない動物であり、大変な農作業も地道に最後までこなすことから、丑年は粘り強さや堅実さを表す年とも言われています。

私ども市議会は、市川市の明るい未来をつかむため、粘り強さと堅実さをもって職務に邁進する所存です。市民の皆様におかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして幸多き一年となりますことを心から祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。